神奈川自然誌資料　4：29～30，Mar. 1983

神奈川県内におけるカミキリムシ科甲虫数種の記録

平　山　洋　人

Some Supplementary Records of Cerambycid Beetles in Kanagawa Prefecture

Hiroto HIRAYAMA

神奈川県に産するカミキリムシについては，露木他（1981）により250種が報告されている。筆者の手元にある採集記録を整理してみた結果，新たに追加すべき種類こそ見当らなかったものの，同報告における記録の極めて少ないもの，同報告中に記録のない地域からの採集例があるもの等，公表しておくべき記録がいくつかみられたので，補足的意味からここに報告しておきたい。

1．ベニバハナカミキリ　*Paranaspia anaspidoides*（BATES）

1♂；津久井郡相模湖町，3. VI. 1972　筆者採集。

分布は普遍的ながら，いずれの地においても個体数の少ない種である。本種は日中採集されることはむしろ稀であり，曇天時あるいは朝夕に，飛翔中，訪花中のものが採集される例が多い。上記個体も夕刻薄暗くなりかけたころ，国鉄相模湖駅前にて飛翔中のものを採集した。露木他（1981）には津久井地区での採集例がないので記録しておく。

2．アカネカミキリ　*Phymatodes*（*Poecillum*）*maaki*（KRAATZ）

1♀；東丹沢ヤビツ峠，20. V. 1979　筆者採集。

丹沢山塊からは今回が初記録と思われる。飛翔中の個体を採集した。

3．スギノアカネトラカミキリ　*Anaglyptus subfasciatus subfasciatus* PIC

3exs；足柄上郡山北町大野山，2. VI. 1979　今村隆一採集。

前種同様，丹沢山塊からの報告は初めてであろう。同地においては必ずしも少なくないようで，他にもいくつか採集例があり，いずれもコゴメウツギに訪花中のものが得られている。

本種はスギの材中に"飛び腐れ"を誘発する害虫として著名であるが，その割には関東周辺における記録は多くなく，既に報告されている箱根付近に多産する他は湘南～三浦半島にかけての神奈川県沿岸部及び東京都の都市部に記録が散見される位であり，特に近年かなりスギの植林が進んでいるはずの高尾～奥多摩～奥武蔵といった関東平野西側内陸部の低～中山域からの記録は皆無に等しい注)。そういった意味で，今回従来の記録地よりも内陸に位置する丹沢山塊のスギ植林域から見い出されたことは，林業害虫の発生予察上の観点からも注目すべきものと思われる。

注）斉藤良夫（1978）は埼玉県産カミキリムシ科の目録中，奥武蔵山地の数カ所から本種を記録しているが，この目録には同属の近似種で関東周辺においては本種よりもはるかに普遍的に分布するトガリバアカネトラカミキリ *Anaglyptus niponensis* BATESの記述がなく，また，他にもかなり真偽の疑わしい種類を含む目録であるため，誤同定の疑念を拭いきれない。

4．キクスイモドキカミキリ　*Asaperda rufipes* BATES

1♀；藤沢市亀井野，14. IV. 1982 筆者採集。（図1）

飛翔中のものを偶然採集したが，県内の記録としては東丹沢広沢寺付近に次ぐものであり，また，全くの平野部における採集例としても関東地方では珍らしいものである。この個体は体長6.5 mmと通常のものに比べかなり小型であり（参考—東京都高尾山産5 exsの計測値は最大9.3 mm，最小7.7 mm），また上翅会合部にみられる白色微毛の発達は著しく弱いものであった。

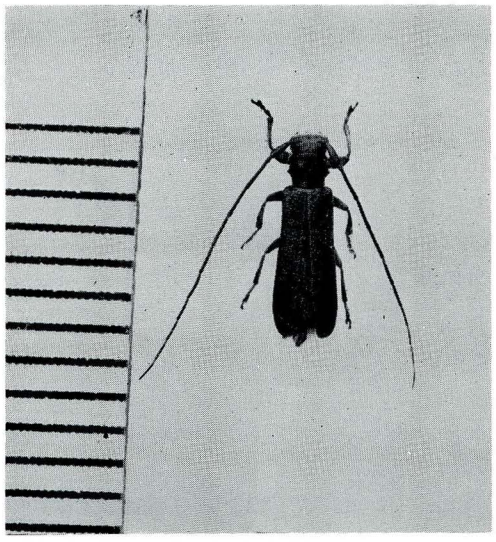

図1．キクスイモドキカミキリ

図2．シロオビチビカミキリ

5．シロオビチビカミキリ *Sybrodiboma subfasciata* (Bates)

1♀; 藤沢市亀井野, 2. VII. 1978　今村隆一採集。(図2)

同地にある日大農獣医学部林学科実験苗圃にて得られたもので，樹種の豊富な特殊な環境下とはいえ，平地における記録は前種同様稀なものであり，県下の平野部では他に大磯町高麗山付近から知られるのみである。

6．ナカバヤシモモブトカミキリ *Leiopus guttatus* Bates

5♂♂3♀♀; 藤沢市亀井野, 9. VI. 1981 筆者採集。

2♂♂2♀♀; 同　上 , 10. VI. 1981 筆者採集。

樹高3～5m程のクロマツ人工林で，真新しい枯枝を夕刻 beating して得た。県沿岸部特に三浦半島のクロマツ林は本種を多産することで全国的にも知られているが，その生息域は開発により近年急速にせばめられており，採集地として以前有名だった横浜市六国峠付近の産地は宅地造成のため，壊滅した。湘南地域でも散発的な採集記録は既に知られていたが，より綿密な調査を行なえば，この方面でも場所によってはかなり多産するものと思われる。本種は，沿岸部のクロマツ林に比べれば生息密度は低くなるものの，県内陸部のアカマツ林にも分布しており，以前川崎市生田付近の標本も検している。

7．シラオビゴマフケシカミキリ *Exocentrus*(*Pseudocentrus*) *guttulatus* Bates

1♀; 藤沢市亀井野, 2. VI. 1982　筆者採集。

県下での記録は少なく，横浜～三浦半島から数例が知られるのみなので，報告しておく。灯火に飛来したもの。

以上で報告を終わるが，発表を御勧めくださった県文化財保護課の高桑正敏，記録の発表を快諾された今村隆一，標本写真撮影の労をとられた猪又敏男の諸氏に末筆ながら深く感謝したい。

文　献

露木繁雄・新堀豊彦・窪田勝信・高桑正敏　1981　神奈川県産カミキリムシ科目録．神奈川県昆虫調査報告書，*419-454*.

斉藤良夫　1978　埼玉県の甲虫．埼玉県動物誌，*213-258* (esp. *239-247*).

(日本大学農獣医学部農学科応用昆虫学研究室)